

十二月十八日

十三時半朝山さんルーカス打合わせ。終了後宗柳で昼食。ベーシー菅原から約束通りコルトレーンのCD10点送付されてきて、地下で聴く。ベーシーの音を知るものとしてはいかにもCDサウンドであつてもこれは辛い。が、それを言つても仕方はない。明日佐藤健に届けられるだけでもよしとしなければなるまい。菅原にお礼の電話をしたら佐藤健の記事は終わりは自身でキチンとけじめをつけなければならぬ、との意見であつた。今のまんまでは仏教に触れた者の色がまだ出ていないと言つ。達人は時に厳しい。バンコクからの帰りの便でノド風邪にやられ今日は最悪のコンディション。夜半学科西谷主任と電話で話す。主任は仲々冷静で全体を良く視ている。

ネパールから戻つて三日経つた。もう完全に本来の俗人に帰つているのを自覚している。ヒマラヤの白い峰々が紅色に染まるのを見て、アアと吐息をついていたのが夢の又、夢である。

十二月十九日

大学で朝九時から各種会議。十五時過ぎ東大へ。鈴木研究室にて東大出版の件で打ち合わせ。京大の山岸教授と再会する。年内に自分の原稿はまとめよう。

十六時半予定より早く東大病院へ。佐藤健にベーシー菅原からのコルトレーン10曲届ける。健さんは今日で十日メシがノドに通

らぬ日が続いている。沢山の管が体に注入されていて痛々しい。この写真を撮つたら毎日新聞もおしまいよ。コレワ。聴きたいと言つので、菅原のオペレーションに従い、まずはデエーク・エリントンとの唯一の共演を。

健、ニカーツと笑つて「でだしいいね」とつぶやく。コルトレーンがデエークとの演奏でそれでも緊張して、押さえ気味のバリードが心にしみる。今日のこの為にあつたような音だよ。聴き通して、次に至上の愛、ラブ・シュプリーム。ベッドに寝たままの頭を少し動かしてリズムをとろうとしている。体が弱り切つて聴くコルトレーンの至高点はどんな風に健さんの気持ちに入っているのだろうか。十八時過真栄寺の照道和尚が来て、交替世田谷に戻る。何とまあ今年の色んな事が起きた年だろうか。夜ガレージハウス打合わせ。打合わせにならぬ打合わせ。これも又、年間通して続いたな。

十二月二〇日

朝八時四〇分地下に降りる。又、しばらく屋上菜園に上つていないな。藤森の奴、俺の菜園を屋上畑呼びわりして、しかも慣れぬ手つきで畑仕事だと、マア言われてみればそうだけど。今日は大学で来客が多い日になる。

午前中、ガウディ・レクチャーの準備。十二時ワンダーランド取材。三井物産ハウステクノ。十四時野原産業。立山アルミ佐脇氏。十六時三井ホーム来室。中国コンペ最終パネルチェック。十八時星の子愛児園アントニオガウディ・レクチャー。今度の厚生館増築はかなり過激になりそうなので、保母さん達をあらかじめ刺激しておこうと考えたのだ。一時間と少々スライドを使ってサルヴァドル・ダリの言葉からバツキーフレー、ル・コルビュジエ、

フランク・ロイド・ライト、そしてフランク・O・ゲーリーのピ
ルバオ・グッゲンハイムまで。走った。修了後、近藤理事長と会
食。